

公立中高一貫校と併願して

お得な私立中学校

公立中高一貫校の入試は「適性検査」と呼ばれます。これに対して、その入試の数日前に「よく似た出題」で腕試しをしておくと生まれたのが、私立中学の「適性検査型」入試です。適性検査型入試は大学入試の変化につながる特徴があることから注目もされています。ここでは公立中高一貫校と「併願してお得」な私立適性検査型入試校を、森上展安氏が解説します。

森上 展安

森上教育研究所所長

森上教育研究所所長。1953年、岡山県生まれ。早稲田大学卒業。進学塾経営などを終り、1987年に「森上教育研究所」を設立。「受験」をキーワードに幅広く教育問題をおつかう。著書に「入りやすくてお得な学校」「中学受験図鑑」などがある。



にできていません。大泉は、筆者の予想として校名をあげておきます。

この第3グループは、大泉と同程度の実績を持つ私立中高一貫校で適性検査型入試を実施する学校を探すと、6校ありました。男子校の京華、女子校の江戸川女子、そして共学校の駒込、桜丘、聖徳学園、安田学園となります。男子校の京華と、女子校の江戸川女子の適性検査型入試の倍率は1倍台です。一方、共学校の駒込、桜丘、安田学園はいずれも3倍台と高い倍率で、なかなか厳しい入試となっております。共学校のなかでは、聖徳学園が1倍台の入試状況です。

これらの私立中高一貫校は、いずれも第3グループ（G・MARCHに40%以上）の大学合格実績をあげています。さらに都立の第2グループ校と併願されるケースも少なくありません。この場合、都立中高一貫校受験での安全校としての併願が考えられます。さて、ここにあげた安田学園、あるいは駒込や聖徳学園にしても、近隣の都立中高一貫校をねらっての入試対策として適性検査型入試を設けていますので、併願先として通いやすさという点からも選択されている面があります。その観点から、さらにみてみましょう。都立中高一貫校は、いわゆる三多

公立中高一貫校の併願校として選ぶ

大学実績でグループ化して 東 同等の私立を併願校に選ぶ

私立の中高一貫校と公立中高一貫校を併願して受験する場合について、併願の仕方を考えていきます。

この場合、基準を公立中高一貫校の方にとりまでするので、まずは公立中高一貫校のなかでも、最大の受験者数となる東京の中高一貫校からみていきます。出口の実績（大学合格実績）でグループ分けし、それとほぼ同様の実績を持つ私立の中高一貫校を併願候補として考えるという手法です。

その併願校を、適性検査型入試を実施している学校から選ぶよというのが今回の趣旨です。

第1グループは、国立大学への合格者の割合が卒業生対比で30%以上の学校群で設定します。

このグループは、桜修館、小石川、立川国際、三鷹、南多摩、両国（順不同、以下すべて）です。

このグループと同程度の実績を持つ私立中高一貫校は男子校もしくは女子校で、共学校は渋谷教育学園渋谷谷谷谷となります。そうした同等の実績をだす私立中高一貫校に、適性検査型入試を実施している学校は、残念ながらいまのところありません。

結論として、第1グループの併願校となる私立中高一貫校は、難関の男子校、女子校だというわけです。つぎに第2グループですが、国公立

大学への合格実績が10%以上で、かつ早慶上理への合格実績40%以上という基準でみます。都立中高一貫校をグループ分けすると、2校の該当校があり、ひとつは富士、もうひとつは白鷲です。この第2グループと同程度の大学合格実績をだす私立中高一貫校のなかで、適性検査型入試の実施校は、かろうじて1校存在します。それが順天堂大系属理数インターです。それを知ってか、さすがに順天堂大系属理数インターの適性検査型入試の受験者数は非常に多いです。ただ倍率は1倍台。つまり大変お得な入試状況といえます。

つぎに第3グループです。ここではG・MARCHに40%以上の大学合格実績を持つ都立中高一貫校をあげます。大泉を、と考えたいのですが、その実績が7月10日の時点でホームページ

摩地区と下町地区に重点配置されているのですが、その近隣に位置する私立中高一貫校に、適性検査型入試を掲げている学校が多数みられます。

三多摩地区では、すでに述べた学校以外にも、共学校で啓明学園、工学院大附属、多摩大聖ヶ丘、明星、明法、武蔵野大中、武蔵野東、八王子学園八王子などがあり、女子校でも東京純心、共立女子第一、白梅学園清修など、多くの学校が実施しています。

なかでも、白梅学園清修は、都立の中高一貫校の校長を経験された先生が校長として着任されていますから、その適性検査型入試には、まさに都立中高一貫校の適性検査の傾向が反映されているものと期待されます。

一方、いわゆる下町地区では女子校が多く、神田女学園、十文字、文京学院大女子、東京家政大附属、京華女子、中村、北豊島、小石川淑徳学園など、こちらも多くあります。この理由のひとつには、これまで公立中高一貫校の女子の倍率が大変高く、入りにくかったという事情が存在します。

男子校では1校、聖学院があります。共学校では上野学園、共栄学園、成立学園、武蔵野、郁文館、かえつ有明、貞静学園などがあります。もともと、都心や西部地区でも、た

とえば女子校の佼成学園女子、トキワ松学園、東京家政学院、共学校として文大杉並、日工大駒場、品川翔英、目黒日大、実践学園、新渡戸文化、目黒学院、目白研心、城西大城西など、やはり多くの私立中高一貫校が適性検査型入試を実施しています。

ただ気をつけたいのは、このなかには、適性検査型入試のみの入試状況を公表しているところと、ほかの一般入試との合算で公表しているところがあり、適性検査型入試だけで入試状況を公表している学校を併願対象にできれば、よりクリアに併願の目的が果たされることを考えます。

そこで、そのような適性検査型のみの入試状況がわかり、かつ比較的規模の大きな入試を実施している学校を以下に掲げておきます。

それは、郁文館、上野学園、江戸川女子、佼成学園女子、桜丘、品川翔英、聖徳学園、多摩大聖ヶ丘、トキワ松学園、中村、文大杉並、順天堂大系属理数インター、武蔵野大中、目黒日大、目白研心、安田学園となります。

神奈川 相模原や川崎との併願なら 適性検査型の倍率はお得に

つぎに神奈川の私立中高一貫校の適性検査型入試に目を向けます。

神奈川の公立中高一貫校では、県立平塚、それから横浜市立南高校附属、横浜市立横浜サイエンスフロンティアが冒頭に記した、出口実績で卒業生対比30%以上の国立大学合格実績を持つ第1グループに入ります。

ただ、これらと同程度の実績を持つ私立中高一貫校は東京と難関男子校、女子校となり、適性検査型入試を行っている学校は、いまのところ1校もない状況です。

第2グループは該当の公立中高一貫校がなく、ついで県立相模原と川崎市立川崎の2校が第3グループ、すなわちG・MARCHへの合格実績が卒業生対比40%以上になります。こちらを対象とする私立中高一貫校は、共学校で山手学院、桐蔭学園、森村学園、関東学院、自修館が同じような出口実績を持つ学校となります。このうち自修館のみが適性検査型入試を行っており、その規模も大きく、受験のメリット、併願のメリットがあるといえます。

そのほかに適性検査型入試を実施している神奈川の私立中高一貫校をあげると、アレセイア湘南、鎌倉女子大中（2026年度より鎌倉国際文理へ校名変更）、鶴見大附属、相模女子大中、日大中、横浜隼人、横浜翠陵、横浜創英、聖園女学院、横須賀学院などがありま

す。このなかで、校名を変える鎌倉女子大中の学園長が市立南高校附属の校長経験者です。公立中高一貫校の適性検査についてよくわかっているリーダーがいる学校という意味でおすすめて

埼玉 適性検査型の実施校は6校 受験生多いが1倍台で推移

ついで埼玉をみてみます。公立中高一貫校のうち、出口の大学合格実績が第1グループに相当するのは、さいたま市立浦和とさいたま市立大宮国際です。

埼玉の私立中高一貫校で適性検査型入試の実施校は少なく、浦和実業学園、西武学園文理、西武台新座、聖望学園、武南、細田学園の6校での実施です。ただ、さきにあげた公立中高一貫校2校の実績とは少々異なる状況といえます。入試結果の活用という点で利点

